

Weekly Report



会長：榊原一久 幹事：佐藤美枝子 RI会長：フランчесコ・アレツォ 第2580地区ガバナー：中川雅雄

四字熟語でロータリー 把手共行 (はしゅきょうこう)

仏教では、人間と人間が手を把って共に行くのではなく、同行や同朋と呼ぶように、仏と共に旅をして修業をすることです。ロータリーソングの「手に手つないで」は、会員相互が共に手を把り、心と心を繋ぎ合わせて、奉仕活動を行い世界の平和を望みます。
(小泉博明)

本日の例会

2月5(木)12:30~13:30
卓話：原口ティナ倫子様
紹介者：佐藤美枝子会員

ニコニコ

大橋 7年間ありがとうございました。何も出来ませんが、ニコニコさせていただきます。
本日のニコニコ合計額：5,000円
今年度ニコニコ累計額：248,250円
今年度指定ニコニコ累計額：10,400円

2月12日例会は休会です。

次回の例会

2月19日(木)12:30~13:30
卓話

2月お祝い

会員誕生日 長尾 益男 会員
皆出席年 20年 野口 昇兵 会員
5年 里見 雅行 会員

1月22日 例会報告

司 会	石川会員
開会点鐘	榊原会長
ロータリーソング	
ソングリーダー	稲川会員
会員総数	28名
出席規定適用者数	22名
本日の出席者総数	18名
// 免除者出席数	5名
本日の出席率	66.66%

2月例会SAA担当

司会	山本 伸也 会員
ニコニコ	山本 伸也 会員
写真	会員
ソングリーダー	細田 新子 会員

1月22日会員卓話



長尾益男会員

会長報告

なし

幹事報告

- 第17回全国校区・小地域福祉活動サミットinとしまのご案内
- 事務局について

2月

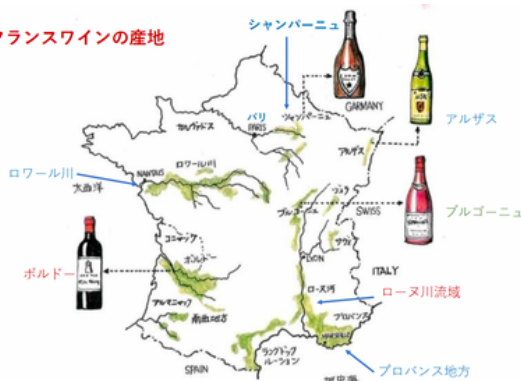
受付：小泉博明会員 宮部一弘会員 野口昇兵会員
司会：山本伸也会員 ニコニコ：山本伸也会員
写真： 会員 ソングリーダー：細田新子会員



「ワインは和飲・輪飲」

ワインは、ブドウ果汁に含まれる糖分が自然酵母によって発酵し、アルコールに変わることによって生まれる自然食品である。産地は北半球では北緯30～55度、南半球では南緯20～45度に広がり、世界約65か国で造られている。発祥は紀元前4000～5000年頃とされ、グルジア(ジョージア)やメソポタミア、エジプト、ギリシャを経てローマ時代にヨーロッパ全土へ広がった。ワインの風味は「香り」と「味」に分けられる。香りには、ブドウ本来の香りである「アロマ」と、発酵・熟成・貯蔵によって生まれる「ブーケ」があり、味わいでは酸味・甘味・渋味(タンニン)・果実味・ボディなどの調和を楽しむ。ワインは料理との相性、いわゆるマリアージュによって、食事の満足度を高める役割を持つ。また、赤ワインに多く含まれるポリフェノール(特にレスペラトロール)には抗酸化作用があり、老化防止や健康維持への効果が期待されている。香りを楽しみ、会話をしながら飲むことで場が和み、人と人とのつながりが深まる点もワインの大きな魅力である。このように、ワインは単なる酒ではなく、「和飲・輪飲」として人の和を生み出す文化的な飲み物といえる。

代表的なフランスワインの産地



「水耕栽培とは」

水耕栽培とは、土を使わず、水と液体肥料(養液)で植物を育てる方法で、主に室内で無農薬栽培が可能な先進的農業技術である。環境や養液、光を管理することで、季節や天候に左右されず計画的な生産ができ、砂漠や都市部など耕地の少ない場所でも野菜を育てられる。代表的な方式には、根を養液に浸すDFT方式と、薄く流れる養液に触れさせるNFT方式があり、植物工場では水耕栽培が主流となっている。近年は家庭でも水耕栽培が広がり、リーフレタスやハーブ類を種から育て、短期間で収穫できる点が特徴である。作業は軽く、子どもや高齢者でも取り組みやすい。

一方で、設備費や電気代などのコストがかかる点は課題である。水耕栽培は、食育や福祉、都市の空きスペース活用など、多様な分野での可能性を持つ未来型農業といえる。

1)水耕栽培(養液栽培)とは



土を使わず水と液体肥料(養液)で植物を育てる方法で、主に室内で無農薬栽培しています。

水耕栽培は溶液栽培とかハイドロカルチャーともいわれており、世界中で先進的農業として研究されその技術はまだ進行中です。砂漠や島など耕地の少ないところで野菜を作る近未来農業です。

水耕栽培は育てる環境、養液と光などを管理をすることにより、季節、地域などに関係なく計画的な生産ができます。

近年各地で建設している植物工場では水耕栽培方式が主流です。

水と肥料

宜野湾ロータリークラブ創立60周年記念式典・祝賀会

1月22日(水)、沖縄県宜野湾ラグナガーデンホテルにて開催された宜野湾RC創立60周年記念式典・祝賀会に、加古博昭会員と共に出席した。会場には中川雅雄ガバナー、佐喜眞淳宜野湾市長、台湾中和圓通RC会員をはじめ240名余が参加し、これまでクラブを支えた方々の温かな眼差しと、これからの新たな世代の意欲が自然に溶け合う、禅でいう瑞気満堂の空気が流れていた。多くの会員の思いや行動の累積による、還暦である60周年という時間の重みを実感した。式典では、沖縄本土返還前の1966年に創設したクラブの歩みや、困難な時期にもクラブの理念を守り、地域に密着した奉仕活動を実践した歴史を振り返り、ロータリー精神の本質を再考する機会となった。祝賀会では、柳清本流琉球舞踊、沖縄バンド、琉球民謡ショーなどの余興があり、参加者同士の交流の中で、世代や立場を越えて奉仕の理想の思いが共有された。フィナーレは「手に手つないで」



でお開きとなった。宜野湾RCの一層の発展と、これからの新たな挑戦と飛躍を期待する。なお、友好クラブの那覇、浦添RCの会員と歓談し友好を深めた。次年度4月には浦添RCは創立60周年を迎える。ぜひとも参加するように要請もあった。

(小泉博明)